

第11回 厚木看護専門学校 学校関係者評価委員会 議事録

日時：2026年6月26日(金)

16:00～17:00

場所：厚木看護専門学校 会議室

1 出席者（9人）

- (1) 渡辺 美和（神奈川リハビリテーション病院 副病院長兼看護部長）
- (2) 郡山 美恵子（厚木市立病院 副院長兼看護部長）
- (3) 佐久間 謙一（愛光病院 副看護局長）
- (4) 間瀬 由記（神奈川県立保健福祉大学 看護学科長）
- (5) 藤澤 哲也（薬理学講師）
- (6) 風間 徹（厚木市松枝地区 自治会長）
- (7) 八木 みどり（厚木看護専門学校2年生 保護者）
- (8) 金泉 風音（厚木看護専門学校2年生 学生自治会長）
- (9) 渡邊 成（厚木看護専門学校1年生 学生自治会副会長）

2 欠席者（1人）

- (1) 稲尾 奈那子（厚木看護専門学校 同窓会長【神奈川リハビリテーション病院 七沢療育園科長】）

3 厚木看護専門学校教職員出席者（5人）

学校長 五十嵐一美、副学校長 田原裕子、看護学科長 池田紀子、総務課長 長塚彩加、看護学科技幹 中原真弓

（オブザーバー：看護学科技幹 安藤直子、看護学科総括主査 高橋隆子、看護学科総括主査 赤堀貴子）

4 議題

- (1) 報告
 - ア 自己点検・自己評価 2025年度の結果と取り組み
 - イ 2025年度 明日の厚木看護専門学校を考える会 アンケート結果
 - ウ 2026年4月新入学生へのアンケート結果
- (2) 報告に関する質疑応答、意見交換
- (3) その他
 - ア eラーニングの導入について
 - イ 海外研修報告
- (4) 配付資料
 - ア 2027年度入学生用 スクールガイダンス
 - イ 2025年度 自己点検・自己評価報告書
 - ウ 2025年度 明日の厚木看護専門学校を考えるアンケート結果
 - エ 2026年4月新入学生へのアンケート結果
 - オ 委員会名簿
 - カ 委員会規程
 - キ 座席表

5 内容等

【進行：田原副学校長】

配付資料の確認、委員紹介を行った。

【五十嵐学校長挨拶】

昨年の国家試験の合格に関しては、全国平均（新卒者のみ）が94.1%であり、当校は95.7%と100%には至らなかったが、全国平均は上回ることができた。今年度もすでに国家試験対策を

開始しており、合格率 100%を目標に取り組んでいく。

今年度 1 年生は 77 名が入学し、昨年度からの休学者 1 名を加えた 78 名でスタートしている。定員には届いていないが、看護専門学校が置かれている学生確保の状況が非常に厳しいなかで、当校を選んでいただいた。そして、その学生たちの評判が口コミで次の入学生に繋がるという良い循環となっていると考える。

今後も当校のより良い伝統や新たな刷新を進め、皆様から評価され、地域とともに歩む学校として、成長していくことを目標とする。今日は忌憚のない意見を多数いただき、当校の糧としていきたい。

【中原技幹】

配付資料に基づき、報告事項のア、イ、ウを説明した。

【八木委員】

1 点目は、Wi-Fi については、接続してもすぐに切れてしまうことがあると聞いている。昨年の会議でも同様の意見が出ていたようだが、もう少し通信環境を改善していただきたい。

2 点目は、金曜日のセルフラーニングデイについて、オープンキャンパスでは「金曜日は自由に時間を使うことができる」と説明を受けた。しかし、実際に入学してみると、授業を欠席した場合にはレポート提出が必要になるなど、制度の趣旨は理解できるものの、そのような説明がオープンキャンパスでは十分に行われていなかったため、学生の中には「説明と違う」と感じる者もいるようである。授業時間数が少なく効率的というのは分かるが、その反対の側面についても説明していただいた方がよいと思う。今後入学を検討する学生も、そのような実態を理解したうえで、やってみたい、入学したいと考えられるのではないか。

3 点目は、台風や電車の遅延など、学生本人の責任によらない事情であっても欠席扱いとなることについて、改善を検討していただきたい。学習意欲があっても、交通機関の運休等により通学できない場合がある。近くに住んでいる学生は登校できるが、遠方に住んでいる学生は難しい、そういったことを考慮して出欠席の取り扱いについて検討していただきたい。

【長塚総務課長】

Wi-Fi については様々な原因があるが、一人が iPad やスマートフォン、スマートウォッチその他複数の端末を繋ぐことで、通信環境に影響が生じる場合がある。特にポケット Wi-Fi を持ち込む学生がいるが、アクセスポイントと干渉するため、持ち込まないように教員から注意喚起を行っている。根本的な改善として、Wi-Fi の整備が必要だが費用が掛かるので徐々にということになる。

【五十嵐学校長】

学生のスマートフォンなどを全て禁止することによって iPad の接続を確保できるだろうと分かっている。だが、他の学校でも行っているとはいえ、スマートフォンなどを禁止することは今の時代に適していないと考えており、また、それをどのように学生に説明するのかという問題がある。

しかし、こういった意見があるのであれば、iPad をしっかりと使えるようにするため、スマートフォンなどを一旦禁止にするか、もしくは学校で貸し出すモバイル Wi-Fi ルーターを整備して、今の体制のまま少しずつ Wi-Fi 環境を改善していくかどちらかである。また、複数台の端末使用については学生と使い方を話し合っていく。

【間瀬委員】

神奈川県立保健福祉大学でもアンケートで Wi-Fi が弱く繋がらないと意見があり、抜本的に強化した。そのため、参加者が多い会議など以外では大きな支障はない。

校内の Wi-Fi は、教職員も含めて LINE など一部の通信や携帯端末の接続を制限し、学業で使えるようにしている。

【五十嵐学校長】

学生は制限されることについてはどのように感じるか。

【金泉委員】

小テストでも Wi-Fi がつながらず、実施が次の時間になってしまうことが結構ある。学習効率の面だけでなく、先生方の時間調整や授業運営の負担も考えると、Wi-Fi 環境が整っていないのは厳しいと感じている。

【渡邊委員】

学校はポータルという出席の登録を行うシステムがあるが、Wi-Fi が繋がらないことによって、欠課扱いとなることがあり、Wi-Fi の整備はしていただけるとありがたい。

【藤澤委員】

講義中にネットワークを使用して講義をしている先生もいると思う。来年自分も参加型の講義をしたいと思っている。そうすると Wi-Fi の環境がないと難しい。

【池田学科長】

確かにテストが次の時間に変更になることはある。しかし、特定の機器に対して利用制限を設けることについては慎重に検討する必要があるのではないかな。

【五十嵐学校長】

制限をするのであれば、一部の機器だけではなく、全てを対象とすることになる。何かを選んで制限するというよりは、スマートフォンの利用を制限する方向で、現段階では考えなければならない。あとは、どの程度 Wi-Fi 環境の整備を進められるかである。

【中原技幹】

小テストの前には学生に理由を説明し、一時的にスマートフォンの電源をオフにするなどの協力をお願いしている。

【田原副学校長】

工夫して対応できるものについては、すぐに取り組んでいきたい。今後はネットワークを使用して授業を展開していく教員も増えていくと思うので、引き続き課題として取り組んでいきたい。

【五十嵐学校長】

レポートについては他の看護学校と比べると半分以下になっている。オープンキャンパスにおいても、ご指摘のとおり事前に十分な説明が必要であると考えている。

金曜日は休みではなく学習時間であるので、課題が終わり一定の成績を収めている学生は自己の時間に充てることは可能だが、レポートや学習が追いつかない場合は、金曜日を学習時間に充ててもらおう。

授業を欠課するとレポートを課しているが、当校の総授業時間数 2,730 時間という非常に少ない学習時間であり、欠課すると国家試験受験に必要な学習の担保に影響が生じる可能性がある。卒業しても国家試験を受験できないことになるため、そこは入学前も含めて、学生にしっかり説明していく。こちらは、至急学科のほうで対応する。

【池田学科長】

遅延の扱いについては、遅れて登校した場合、授業の前半部分を受講できていないという事実は変わらない。その状態で後半の授業内容を十分に理解できるのか、また、受講できなかった内容を補わなくてよいのかという問題があると考えている。

特に技術演習については、遅れてきた学生に対し、教員がほぼマンツーマンで不足した内容を補う対応を行っている。電車の遅延など本人の責任ではない事情であることは理解しているが、出席できなかった時間については、学校として責任を持って補完する対応を行っている。

遅延時の取扱いについては、必要に応じて入学前の説明の中でも丁寧に伝えていきたい。

また、学生の欠席や遅刻に対する意識について、以前よりも自由度が高くなってきていると感じている。遅刻しても教員への報告がない、欠席しても当日中に連絡がないといったケースもあり、学校で歯止めをかけないといけない。臨地実習や卒業後の就職を見据え、やや厳しく指導する場合もあるが、看護の現場では、限られた人員体制の中で業務を行っており、一人の欠勤や遅刻が周りに迷惑をかけてしまうことにも繋がってくるので、学生に理解してもらえるよう引き続き説明していきたい。

【五十嵐学校長】

新卒者が遅刻や無断で欠席すると学校に情報がくる。これは、病院と学校との連携のなかで、学校がどのような教育を行っているのかを確認する意味合いもあると思う。学校には教育機関としての責任があるため、臨床にしっかりと教育した学生を送り出していくことが重要である。

【郡山委員】

厚木市立病院では、連絡しないで休むことは基本的にない。最初のオリエンテーションで休みの連絡方法を伝えているので、きちんと連絡できている。また、連絡が直前になってしまう人は、年齢とは関係ないので新人が多いとは思っていない。職場に入るとその意識はしっかりしてくる。

【金泉委員】

欠課レポートについては、欠席した分の授業は自分の中で焦りもあるので、復習の時間として活用でき、体調管理の意識も上がるので、理由をしっかりと説明すれば学生も必要性を分かってくれると思う。理由が分からずに書いている学生が多いと思う。

【田原副学校長】

教育する側の意図がきちんと伝わることが大切である。

【八木委員】

これからも金曜日のセルフラーニングデイはそのまま、授業は週4日で変わらないという方針か。

【五十嵐学校長】

3年生は違うが、その他の学年は変わらない方針である。

【田原副学校長】

遅延の扱いに関しては、基本的に遅延の外的な因子があつてやむを得ずいうことは理解している。学習の不足分を修めるということとは別にアクシデントに関する証明書類は、単位認定に関わる際に判断材料の一つとなる。そのため必要な手続きについては、学生にきちんと行ってもらいたいと考えている。

【池田学科長】

週4日の授業については、月曜日が祝日等で休校となる場合には、金曜日に授業を行い週4日分の授業は確保するようにしている。しかし、教員の説明不足で金曜日の登校について学生の理解が得られていない可能性があるのでは、あらためて説明を行っていく。

【八木委員】

学生の中には金曜日は休みという認識を持っている者もいる。

【五十嵐学校長】

金曜日の扱いについて、改めて休みではない事を学生に伝えていく。

【渡邊委員】

先生や先輩方は、休みの取扱いなどについて分かりやすく説明してくれていると思う。ただ、入学したばかりの時期は頭がいっぱいで、説明を受けても内容を整理しきれないことがある。学生生活が落ち着いた頃に再度説明してもらえると、より理解しやすいと思う。

【池田学科長】

一回説明を行い、夏休み前などに再度行っていく。

【田原副学校長】

学外での最近の学生の素行はどうか。

【風間委員】

毎年状態が違うが、今年は元気で少人数でいることが多い。近所からうるさいとクレームがあったようだが、自分はうるさいとは思わないが、元気があることは確かである。道を広がって歩いているとは感じている。

レポートや授業が少ないなかで、国家試験の合格率はどのように評価されているのか。リーフレットをみるとインパクトのある内容が多くやる気を感じる。新しい施策と結果や次の課題についてどのように感じているか。

【池田学科長】

合格率はICTを入れて授業を少なくしたが、あまり合格率は変わっていない。自由度が上がったとしても、教員がしっかりサポートすれば学生はしっかり学習を自分で整えていける。今までがんじがらめで勉強してきた学生を、自分で考えて自らをマネジメントしていく力を身に付けられるよう学校として支援していきたい。学生には自分と向き合う時間が必要になってくるので、さまざまな趣味や活動に取り組んだり、人間関係をさらに深めたりすることで、看護師としてだけでなく、一人の人間としても大きく成長できる学校を目指していきたい。

【五十嵐学校長】

学生の自由度が上がれば教員はとても大変になる。その自由度を与えて国家試験合格につなげることは、放置するということではなく、仕掛けづくりがとても大事になる。その教員の努力は以前より2倍くらい大変だが、教育者としてしっかり向き合ってもらいたい。学生の学びたいという気持ちをどう喚起していくのかは、教員が主体となって取り組むよう伝えている。ただ、成果が出ないとこれは失敗となるので、学生の学習環境を守るためにも教員には成果を出せるよう努めるよう伝えている。

【風間委員】

そうした一歩先を見据えた目標があるのであれば、難しいとは思いますが、その内容や成果が見えるようにした方がよいと思う。

以上